

6. 結論ならびに開発に対する意見

1) 鉱床は古生層千枚岩中にあるいわゆる千枚珪岩中に胚胎するマンガニ鉄脈で、上盤位には石灰岩を伴なう。1 鉱体の大きさは脈幅 5~100 cm, 走向延長 10 m 前後のものが約 200 m の間に断続していると推定される。

2) 鉱床は開発の初期に当り、鉄量の算定基礎に乏しいが、露頭は延長 200 m にわたり点在し、珪岩の発達等より鉄床規模は中程度と推定される。

3) 八幡浜市に比較的近く、搬出その他開発に特に不利な点は少ないので将来さらに探鉄が期待される。

(調査: 林昇一郎) (昭和 28 年 6 月調査)

地質調査所月報 6巻3号 正誤表

頁	行	誤	正
33	上 6	Poleozoic	Paleozoic
25	第 2 図	貯水場(2カ所とも)	貯木場
36	図版 1		} 説明文入れ違い
	図版 2		

地質調査所月報 6巻4号 正誤表  
46頁の尾前鉄山売鉄成績表を次の通り訂正する。

年 月 日	数 量(t)	Mn (%)	SiO <sub>2</sub> (%)
26. 12. 28	11,560	42.28	9.50
27. 3. 30	11,070	49.96	6.33
27. 5. 1	5,950	33.35	22.40
27. 6. 17	14,610	47.41	6.67
27. 8. 18	11,810	46.82	9.33
27. 10. 13	8,820	49.17	6.47
28. 3. 21	11,120	47.67	8.93
28. 7. —	6,870	50.50	—